

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	本巣市		学校名	本巣市立根尾学園		
校長名	安江 政利		対象学年	全校	人数	45人
項 目	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践				
該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践				
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践				
学校の教育目標	ふるさとを愛し、仲間と共に未来を切り拓き たくましく生き抜く児童生徒 ～自立・共生・創造～					
活動のねらい	根尾地域の特色を生かした活動を通して、児童生徒が自ら問いを立て、問いを解決するために考え続け、自らの納得解をもち活動する中で、「ふるさと根尾」への愛着と誇りを高める。そして持続可能な根尾の未来を創り出す児童生徒を育てる。					

〔活動の特色〕

1 根尾への愛着と誇りを高める総合的な学習の時間「ふるさと科」

義務教育学校として、小・中学校の関連性や発展性を踏まえ、「地域とのかかわりの中で、ふるさとの未来を創る」というテーマを軸に、3、4年「ふるさとを知る」5、6年「ふるさとに学ぶ」7～9年「ふるさとを発信する」という探究課題をもち、課題解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確にし、実践を行った。根尾地域の伝統、文化、産業、自然環境等を守り、地域の課題を自分事として捉え、これからの地域の在り方について自己の生き方と関わらせて考えることができる児童生徒を育てる活動である。

3・4年生は「ふるさと科」で、根尾の産業についてより多くの人に興味をもってもらえるパンフレットづくりの改善策を地域の方と協働して考えた。その中で、根尾らっきょうについて、宇津志ファームを経営する岐阜トヨペットホールディングス食育事業部の担当者の方に出前授業をしていただいた。また、地域の方のいんにく畑に伺い、収穫体験をした。



5・6年生は「ふるさと科」で、休業中の「うすずみ温泉」を復活させる活動内容を根尾地域活性化推進協議会と協働して考えた。子どもたちが考えた案に対して、より現実的になるようなアドバイスをくださり、根尾地域の活性化につながる学習を展開することができた。

2 各教科における地域人材の活用

「ふるさと科」のみならず、生活科や社会科などの各教科、防災教育、学校行事などにおいても根尾地域の特色を生かし、地域人材を活用した教育課程を編成している。

(1) サツマイモの苗植え、収穫

1～4年は学校の畑で JA ぎふ根尾支店の方に、5・6年生は宇津志ファームで岐阜トヨペットホールディングス（株）食育事業部の方にご協力いただき、サツマイモの苗植え、収穫体験を行った。宇津志ファームでは、サツマイモの他に里芋、落花生も収穫した。子どもたちはそれぞれの担当から説明を聞き、一つずつ丁寧に収穫した。収穫したサツマイモは給食のメニューにいただいたり、1・2年生は生活科で蒸しパン等にして全校の仲間振る舞ったりした。



(2) 田植え、稲刈り

7～9年生は根尾米の田植え、稲刈りを行った。地域の「うすずみ応援団」の方に協力していただいた。2月に予定している「感謝の集い」で、精米した根尾米、根尾米を使った「根尾どら（どら焼き）」をお渡しする。



(3) 「根尾ふるさと集い」

根尾学園、根尾幼稚園の子どもたち、根尾地域の方が集い、運動会を行った。競技内容は児童生徒会メンバーが「根尾地域を元気にしたい」という願いをもち、保護者会（R6年度から発足したPTAに代わる組織）と連携しながら検討した。地域種目では、全員参加型の玉入れ、根尾踊りを行った。根尾踊りでは事前に根尾踊り保存会の皆様に踊り方を教えていただいた。根尾学園種目では、うすずみ班（縦割り班）対抗による二人三脚等を取り入れたリレーや全校を2つのチームに分けたりレーを行った。根尾幼稚園種目ではかけっこ等があり一生懸命に頑張る姿に会場全体が温かい雰囲気にも包まれた。その他、根尾学園、根尾幼稚園種目では綱引き、大玉転がし、借り物競争などを行った。根尾学園、根尾幼稚園の子どもたちが頑張る姿を地域の方に見ていただくとともに、地域と一体となった行事にすることができた。



3 県内施設の活用

(1) 淡墨桜の種拾い（3・4年生）

国の天然記念物であり、樹齢1500年を誇る淡墨桜の種を拾う活動を行っている。地域の「淡墨桜を守り広げる会」の方と協力して毎年5月下旬ごろに行っている。普段なかなか入ることのできない淡墨桜の柵の中に入り、担当者の説明を聞きながら種を拾った。「淡墨桜を守り広げる会」の方は拾った種を苗木になるまで育て、その後、県内外に植樹する活動をしている。



(2) 岐阜県博物館（1～6年生）

11月前期課程の児童が遠足で、岐阜県博物館に行った。縦割り班ごとに館内を巡ったり、博物館の方から恐竜について詳しく説明を聞いたりした。特に恐竜の話については、子どもたちは興味津々で、担当者の方の話をしっかりと聞くことができた。その後、百年公園の遊具で楽しんだ。



〔児童生徒の変容〕

本校は令和4年に義務教育学校となり、3年目を迎えている。主な特色として、「ふるさと科」等の探究の学びが挙げられるが、地域人材等との関わりが大きい。特に地域のことをよく知る地域の方との連携は、「ふるさと科」を展開する上で不可欠である。今年度、3・4年生は「ふるさと科」や社会科等の時間を利用して、茶摘み体験やにんにくの収穫等を行い、地域の魅力を再発見することができた。特にお茶畑の見学では、子どもたちは目を輝かせながら、実際に茶葉の手摘みを行った。また、話を聞く中で、年々栽培に関わる方が減っているという歴史的な背景を知ることもできた。5・6年生「ふるさと科」では、休業中の「うすずみ温泉」を復活させようと、地域の方と関わる中で、地域の観光資源の有効活用を自分事としての捉えることができた。地域の方も、労を惜しまず、子どもたちと真正面から関わっていただけた。

今後も、地域の方々の温かさに触れながら、子どもたちが「ふるさと根尾」への愛情を育むことができるように、学校と地域とが連携を図りながら、教育活動を進めていきたい。